

St. Luke's College of Nursing RCDNP Annual Report 2009

2009 年度聖路加看護大学 看護実践開発研究センター報告書



■ 看護実践開発研究センターとは	3
■ センター長・各部門長挨拶	5～7
■ 市民の皆様へ	

ナースクリニック

①ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ	9
②赤ちゃんがやってくる	9
③ルカ子母乳育児相談室	9
④乳がん女性のためのサポートプログラム	9～10
⑤天使の保護者ルカの会	10
⑥天使の保護者ルカの会グリーフカウンセリング	10
⑦子どもの健康、知ろう、考えよう！	11
⑧食事・栄養相談と健康心理カウンセリング	11
⑨多世代交流型デイプログラム 聖路加 和みの会	11～12
⑩出張介護講座	12
⑪転倒骨折予防実践講座	12～13
⑫リンパ浮腫ケアステーション	13

市民健康講座

①健康支援ボランティア講座	15
②あなたに見合う運動実践アドバイス	15
③ストレスマネジメントヨーガクラス	15～16
④新健康カレッジ 「もっと知ろう、自分のカラダ！」	16
⑤聖路加市民アカデミー	16
⑥はじめの一步の会	17
⑦中央区民カレッジ（まなびのコース）	17
⑧中央区民カレッジ（シニアコース）	18

■ 看護職の皆様へ

ナーススキルアップ

①英文文献を読もう！パートⅠ	20
②英文文献を読もう！パートⅡ	20
③看護管理コンサルテーション	20
④緩和ケアコンサルテーション	20
⑤がん看護事例検討会	21
⑥精神看護事例検討会	21
⑦語り合おう！看護マネジメント 看護管理者のためのサポートプログラム	21
⑧退院調整看護師養成プログラムと活動支援	22
⑨文献検索 ～ 準備体操	22
認定看護管理者セカンドレベル講習	24
認定看護師教育課程 不妊症看護コース・がん化学療法看護コース・訪問看護コース	24

■ その他

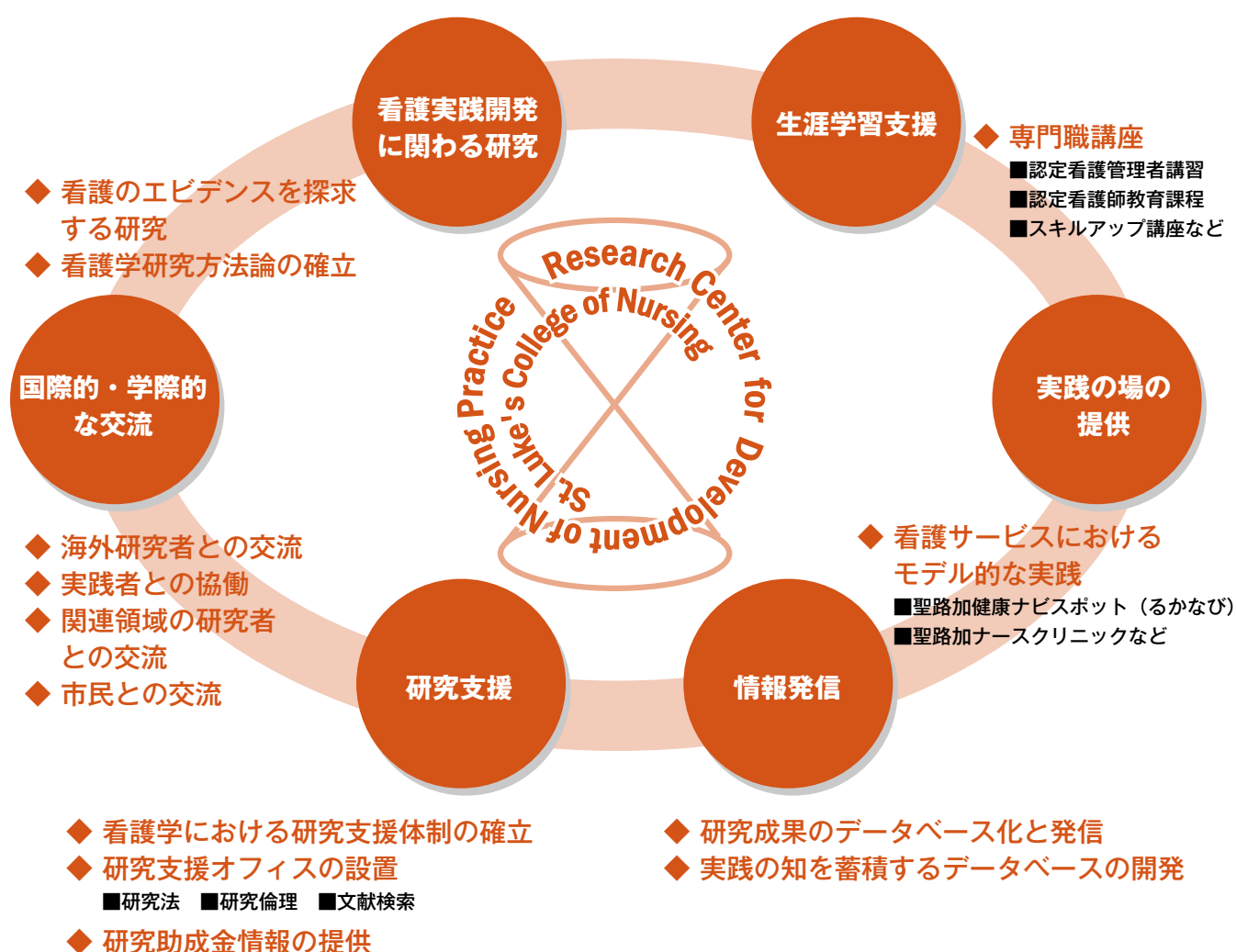
聖路加健康ナビスポット るかなび	25
企業との連携—産学共同プロジェクト	26

■ 2009 年度看護実践開発研究センター 事業一覧	27
■ 2009 年度教育・研修におけるセンターの活用状況	28
■ 2009 年度看護実践開発研究センター 運営委員会・専任研究員・支援室スタッフ	28

看護実践開発研究センターとは

少子高齢社会で生じている健康問題や社会の動向を、看護の視点でグローバルに捉え、科学的根拠を集積し、市民とのパートナーシップをとりながら、看護の提供方法を開発研究することを目的とし、開設されました。組織はセンター長のリーダーシップのもとに、「看護ケア研究部門」、「教育研究部門」、「国際看護研究部門」、「政策研究部門」、「継続教育部門」の5つの部門をおきます。各部門は、独立しながらも機能的に連携しています。看護学の研究課題は、実践の場から生まれ、そして研究成果は実践の場に戻るものでなければなりません。このよい循環をつくる活動を推進いたします。

おもに、看護実践開発に関わる研究と、その支援体制の確立、国際的・学際的な交流事業、市民・専門職に対する生涯学習事業、看護サービスのモデルとなる実践の場の提供、などの事業を行います。また、これらの研究事業をつなぎ、成果を蓄積し、臨床の場に提供できるようなデータベースを開発していきます。

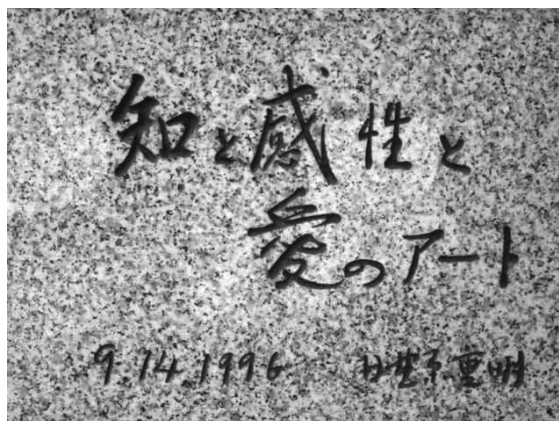




理事長 日野原 重明



学長 井部 俊子



センター長挨拶

看護実践開発研究センター センター長 山田雅子

看護の仕事は、人が胎児の頃から生まれ、成長し、大人になり、老いて亡くなるまで、本当にさまざまな場面で皆さまの生活の仕方の中に深くかわり、より良く生きることを一緒に考えていく仕事です。看護の仕事はまた、病院の中だけではなく、何か病気を持っているときだけでもなく、入院していても社会に中にあっても、ありとあらゆる場面で必要とされている仕事です。この大事な考え方は、時として看護師自身が忘れてしまい、注射を打つことや病状を医師に報告することだけで看護をしている気になってしまうことも多いのです。聖路加看護大学看護実践開発研究センターでは、健康って何だろう、よりよく生活していくためにはどうしたらよいのかについて、看護師が市民のみなさまと共に、もう一度振り返り、具体的な実践につなげていくことを大きなテーマとしております。この報告書はたくさんの試みのなかのエッセンスをお伝えするために企画いたしました。ご参加いただきましたみなさま、ありがとうございました。そして多くの試みにご支援下さいました皆様、心より感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



教育研究部門

教育研究部門長 森明子

今年も聖路加・テルモ共同研究事業の一環として活動できました。「るかなび」の来訪者は年々増加しており、地域に定着しています。新たなボランティアの育成に加え、市民ボランティアの皆さんがさらに勉強会で実力アップをはかっています。また、計測・相談活動の後の受け皿となっている事業も発見しました。活動の拡がりとともに、市民ひとりひとりの健康を支援するために、ボランティアやコーディネーターらが核となってセンターの活動の情報を集約し提供することが重要です。るかなびの理念を守りながら活動を維持し、発展させるために必要な人材（市民・専門職）と資金の確保が今後の課題です。



市民アカデミー、新健康カレッジでは、広報にノウハウが蓄積して多くの市民にご参加いただき、専門職から市民へ、新しい知見やタイムリーな話題を届けることができました。

中央区との連携事業である区民カレッジの「学びのコース」「シニアコース」は、ともに定員一杯の参加者があり、好評でした。いのちの営みを知ってよりよく生きるための方略を考えたり、医療や看護について知っていただきました。区民の皆さんのニーズに、より合った内容を目指したいと思います。

政策研究部門

政策研究部門長 山田雅子

政策研究部門として申請のあった研究課題の一覧をお示します。

表 政策研究部門として実施した事業一覧

	主任研究者	研究テーマ
1	吉田千文	小規模訪問看護ステーションの協働による経営課題解決への取り組み
2	梶井文子	認知症高齢者の学際的チームアプローチに関するケアの質評価システムの開発
3	鶴若麻理	アジア地域におけるリビングウィルに関する可能性と課題
4	及川郁子	障害児の地域生活への移行を促進するための調査研究事業

政策研究部門は、人々がより良く健康的に生活するための方策を提言し、それを社会の仕組みの中に根付かせていくことを支援していくことを目的としています。部門の役割をまだ十分に果たしているとはいえない状況ですが、研究で明らかになったことを学内の教職員や一般の市民の皆様とまずは共有していくことが必要だと考えています。

継続教育部門

継続教育部門長 松谷美和子

継続教育部門は、看護専門職者の自己研鑽を支援する部門です。平成 21 年度は、大きく 2 つの支援を行いました。ひとつは、認定看護管理者セカンドレベル講習の開講です。この講習には、関東圏はもとより、関西からの参加者も加わり、連日、講義と活発なグループでの話し合いが展開され、系統立った知識と具体的で深い学びを得ることができました。周到に準備したプログラムと講師陣による授業は、修了者 29 名の満足度の高い学びの機会となりました。今後は、3 年ごとにセカンドレベル講習を開講し、その間の 2 年間はファーストレベル講習を開講してまいります。ふたつ目は、2 年目を迎えた不妊症看護、がん化学療法看護、訪問看護の 3 領域における認定看護師養成課程の開講です。実習を含め、専門性の高い、最新の技術と知識を具体的に学ぶ機会となり、非常に満足度の高い講習となりました。修了生 63 名はそれぞれの実践現場において、講習の成果を生かし、看護ケアの質を実質的に向上させていこうと決意を新たにしていました。看護実践につながる学びの場としての充実を図り、看護専門職者が計画的に自己研鑽を重ねていく機会を提供していきます。このはたらきが、21 世紀の人々のよりよい健康生活の生成に役立ちますように。



国際看護研究部門

国際看護研究部門長 田代順子

国際看護研究部門は、大学各領域から選出された 5 名の部門運営会議メンバー（兼任研究員）で下記の業務を進めてきました。1) WHO プライマリーヘルスケア看護開発協力センターの事務局としてセンターでの People-Centered Health Care（人々が中心のケア）実践開発研究成果を、WHO 本部や西太平洋地区事務所に報告し、グローバルヘルスに役立ててもらう WHO との窓口業務。2) 国際研究活動として、国際保健医療研究委託費の助成を受け、国際保健に貢献できる看護人材育成のため大学院修士課程の「国際看護学・助産学」のコアカリキュラム開発研究に取り組みました。本研究で、昨年度、日本の大学院修士課程での教育をしている教員コンソーシアムを組織しました。研究はこのコンソーシアムを基盤に進めました。WHO から配信される多くの情報は、このコンソーシアムメンバーにさらに配信し、グローバルヘルスの情報の共有を図りました。3) 海外から日本の看護を学ぶ看護リーダーを受け入れて研修協力しました。



今後とも、WHO の西太平洋と南西アジア地区で推進している、People-Centered Health Care（人々が中心のケア）を国内外で推進し、国際保健に貢献できるよう今後とも活動を続けてまいります。

看護ケア研究部門は「人々を中心とした看護ケア」を主軸において、地域で生活する多様な世代にある多様な健康課題をもつ方々をその対象として、看護の実践開発をすすめてきました。各事業で対象とした健康課題は、妊娠中の女性とその家族、授乳中の母子、周産期に赤ちゃんをなくされた家族、幼児をもつ家族、子宮筋腫など女性特有の疾患をもつ方、乳がんをもつ女性、高齢者の介護を行う家族、虚弱・認知症をもつ高齢者、転倒予防に関心のある高齢者、健康について学習したい高齢者で、それぞれ専門性の高いものです。これらはユニークな名称のもと、下記の12の看護ケア研究事業として展開され、年間総計2,257名の市民のご参加をいただきました。



また、この部門に属する研究事業全体としての質を「構造 - 実践過程 - 成果」の各要因から評価・分析し、今後さらに質を向上するために、部門ミーティングでは、各事業の内容や課題、および様々な対象者に安全に事業を展開するための方法について話し合っています。今後も研究者と市民の皆様との協働により、看護実践のあり方を研究開発していきたいと考えております。

今年度の看護ケア部門研究事業名（ナースクリニック）

- | | |
|---|------------------------|
| ■赤ちゃんがやってくる | ■天使の保護者ルカの会グリーフカウンセリング |
| ■ルカ子母乳育児相談室 | ■リンパ浮腫ケアステーション |
| ■ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ | ■食事・栄養相談と健康心理カウンセリング |
| ■乳がん女性のためのサポートプログラム | ■多世代交流型デイプログラム聖路加和みの会 |
| ■子どもの健康、知ろう、考えよう！
ー子供の健康を家族と考える学習・交流会ー | ■地域在住高齢者のための転倒骨折予防実践講座 |
| ■天使の保護者ルカの会 | ■出張介護講座 |



ナースクリニック



■「ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ」（看護ケア研究部門）

事業主：森 明子 開催日：6回 / 年 参加人数：延べ 53 名

ルカ子ウィメンズヘルス・カフェは、一般女性を対象に「子宮筋腫」「子宮内膜症」「不育症」「不妊症」「出生前検査」の各テーマについて、看護職によるミニ講座と自助グループメンバーによる体験談、おしゃべり会などを行っています。会への参加を通して女性のからだについて学び語り合うことで、正しい知識を得るだけでなく参加者同士の情報交換や交流を深める場となっています。2009 年度は 6 回開催して延べ参加者数は 53 名、その多くは 30 ～ 40 代の会社員や主婦の方々でした。各回とも、参加後のアンケートでは概ね「また参加したい」という評価をいただいています。「不妊症」の回は、当センターの認定看護師教育課程（不妊症看護コース）の授業の一貫として研修生が 2 グループに分かれ、各グループで 1 回ずつ企画から運営を行っています。今後も女性が自分に合うケアを知り、選択する機会となるよう努めて行きたいと思います。

■「赤ちゃんがやってくる」（看護ケア研究部門）

事業主：片岡 弥恵子 開催日：6回 / 年 参加人数：188 名 / 63 組

「赤ちゃんがやってくる」は、新しく子どもが生まれる家族、特に兄姉になる子どもたちに対して、「赤ちゃんが生まれるってどういうこと？」「なぜ、赤ちゃんが生まれるの？」「赤ちゃんとは？」などについて学習し、新しく家族を迎えるための準備クラスです。兄姉になる子どもたちが、新しい生命の誕生を通じて、自分の生・性を大切にすることができるよう働きかけると同時に、母親や父親が、今後子どもたちと性に関する話ができるきっかけ作りになっています。

■「ルカ子母乳育児相談室」（看護ケア研究部門）

事業主：堀内 成子 開催日：毎週月・水曜日 参加人数：約 240 名

ルカ子母乳育児相談室では、授乳中のお母様とお子様が楽しく母乳育児を行えるような場を提供したいと思っています。出産施設を退院した後、ご自宅に戻られてから、「母乳の出が少ないような気がする」「オッパイがはって痛い」「離乳食はいつから始めたらいいのか」「事情により途中で母乳をやめなければならぬ」など、いろいろとご心配なことや気になることがある時、気軽にお越しいただけるような母乳育児相談室でありたいと思っています。母乳育児支援を専門としたスタッフ（全て助産師）が、授乳の仕方や乳房マッサージ、卒乳、育児相談など、母乳育児支援を通して、授乳中のサポートをさせていただいております。完全予約制ですので、担当助産師が、母子 1 組に対してゆっくりとお話を伺いながら、それぞれの方に見合った支援をさせていただいております。また当院に来院していただく以外にも、お母様のご希望があれば家庭訪問による支援もさせていただいております。

■「乳がん女性のためのサポートプログラム」（看護ケア研究部門）

事業主：小松 浩子 開催日：9回 / 年 参加人数：365 名

『自分の歩調を大切に－ Living at Your own Pace －』この合言葉をもとに、乳がんを持つ女性が、主体的・効果的に治療を継続し治療を受けながら充実した生活が送れるように、個々の体験を分かち合う場として、サポートプログラムを開催しています。

2009年度は個々の体験を分かち合う話し合いを7回、乳がんに関する学習会を2回、合わせて9回のサポートプログラムを開催しました。体験を分かち合う話し合いでは、自由に話し合う会とテーマをいくつか設けて話し合う会を設けました。テーマ別の話し合いでは「治療について」「生活について」に加え、若い年代のグループ、熟年世代のグループなど世代ごとの悩みが分かち合えるテーマを設けて行ないました。また、年に2回の学習会では森 美樹先生（聖路加国際病院乳腺外科）による「乳房再建術について」の講義と川嶋 朗先生（東京女子医科大学 附属青山女性・自然医療研究所 自然医療部門）による「がんと統合医療」に関する講義を開催しました。

■「天使の保護者ルカの会」（看護ケア研究部門）

事業主：堀内 成子 開催日：7回/年 参加人数：96名

今年度は、お話を7回、イベントを3回開催し、参加者人数も100名弱となるなど、6年目に入り、活動も安定してきました。昨年から、ご夫婦で参加される方が増加傾向にあり、今年も男性が参加しやすいよう、土曜日の開催を多くしました。男性の方は女性の方に比べて悲しみを表出する場がなく、他のパパさんと交流する場が必要であることを実感しました。また、今まで継続して参加されていた方が卒業し、今年初めて参加された方がリピーターとなってお話をひっぱりくださるなど、活動を継続することの意義を実感した年でもありました。参加される方のお話を伺いながら、いまだ病院によるケアの格差はあるものの、以前に比べてご両親が受けたケアは格段に改善されているように感じます。天使の保護者ルカの会はこれまで、参加された方のお声を、研究や教育活動に反映させてきました。今年は、ペリネイタル・ロス研究会との連動も一層強化し、参加者の方に学会の講演や看護者の教育プログラムにご参加いただき、学会や研修会においても、5年間の活動紹介を積極的に行いました。

その結果、これまで以上に医療者からの関心を集めることができ、活動の成果が認知されてきたように感じます。

■「天使の保護者ルカの会 グリーフカウンセリング」（看護ケア研究部門）

事業主：堀内 成子 開催日：毎週水曜 参加人数：5組

流産・死産・新生児死体験者のためのサポート・グループである『天使の保護者ルカの会』が、活動6年目を向かい、個人面接によるサポートとして、2009年6月より開始しました。面接を担当するのは、この分野で、当事者との対面経験豊富な、カウンセリングのトレーニングを受けた、臨床心理士と、社会福祉士です。

流産・死産・新生児死などで、子どもを亡くす体験は、両親のところに大きな負担と不安を与えています。気持ちの変化は激しい時があり、夫婦間のコミュニケーションが難しいことがあります。亡くなった命をめぐって交わされる周囲からの励ましが、かえってつらい気持ちを引き起こすこともあります。このグリーフ・カウンセリングにおいては、グループの中では、語りにくいプライベートな問題や気持ちを話題にできます。死をめぐるとつらい感情を表出したり、亡くなった命への想いを新たに作る場所として、利用していただければと考えています。まだ始まったばかりの取り組みですが、他の医療施設からの紹介等もあり、日本国内の看護系大学の関連施設における初めての周産期喪失グリーフ・カウンセリングとして徐々に周知されつつあります。

■「子どもの健康、知ろう！考えよう！」（看護ケア研究部門）

事業主：及川 郁子 開催日：4回/年 参加人数：140名

2009年度は4回実施しました。テーマは、7月「子どもの応急処置と救急蘇生」9月「子どもの生活と体、心、脳の働き」11月「子どもの冬の健康を守ろうーこれから流行する病気と対応」2月「子どもの感情はどのように育つかー関わるのが難しいなと思うときの対応は？」です。現在の子どもたちの問題や季節に合わせ、専門の講師を招いて講義を60分～90分程度行い、その後参加者との質疑応答を通しての交流を図っています。参加者は中央区在住・在勤であり、夕方の2時間、積極的に参加していただき、リピーターも増えてきています。参加者のアンケートからは、学習内容のわかりやすさ、講師や参加者が身近に話せて堅苦しくないこと、会の運営や全体の雰囲気がいよことなどが挙げられています。託児の実施に伴い、子どもを預けての保護者の参加も増えてきました。今後も参加者のニーズを吸い上げながら企画運営を行っていきたいと考えています。参加者の多くは、保育所・幼稚園・学校に配布しているチラシを見て申し込んできます。次年度も引き続き実施予定ですが、早めの企画と広報を心がけ、多くの方々にご参加いただくように進めたいと考えています。

■「食事・栄養相談と健康心理カウンセリング」（看護ケア研究部門）

事業主：梶井 文子 開催日：予約制 参加人数：2名

食事・栄養相談は、高齢者とご家族（介護者を含む）や、成人期の方が安心して毎日の食事をとることができるように支援したいと考え実施しています。具体的には、介護食の調理方法・献立内容、低栄養予防ならびに改善をするための食事内容、糖尿病食や腎不全食、むせや飲み込みが難しい方への食品の選び方とケア方法等を行っています。健康心理カウンセリングは、日常生活の人間関係などで起こってくる不安、怒り、うつなどの感情の正体とコントロールについて学習しながらストレスマネジメント法を身につけ自ら問題解決できるように支援等を行っています。今年度は、食事・栄養相談には、自宅で介護をされているご家族と、ご自身の健診後の食事指導内容について心配についてのご相談の2件がありました。健康心理カウンセリングは、相談者はいませんでした。

■「多世代交流型デイプログラム 聖路加 和みの会」（看護ケア研究部門）

事業主：亀井 智子 開催日：毎週金曜日 参加人数：のべ879名

都市部本学近隣に在住の高齢者と小中学生という世代間の交流を促進し、高齢者の知恵や豊かな経験、地域の文化を子ども世代へ伝承しながら、共に楽しく和み、学び、交流するねらいで聖路加和みの会がスタートし、今年で3年目が終わりました。この会は、本学21世紀COEプログラム高齢者ケアプロジェクトと区民企画委員の協働によって平成18年10月に開催したシンポジウム「認知症になっても安心して暮らせる街づくり」の終了後のご意見から発展して創設されたものです。会の名称は、人が集い、和むという意味を込めて、区民が命名したものです。

本会は、毎週金曜日の午後、本学2号館ぼるかルームを中心に開催していますが、地域散策にも出かけます。参加資格は、65歳以上で本プログラムに興味のある方、ひとり暮らしなど他者との交流が少ない方、軽度の認知症をもつ方、介護している方、小中学生です。プログラムやおやつなど老年看護学の教員が考え、コミュニケーション促進プログラム、多世代交流書道、タペストリーやお手玉作り、昔遊び、

中央区かるた作り、アロマハンドケア、歌の会、ペーパークラフトなど、毎週違うプログラムを企画しています。春と秋には地域散策や、大学の校庭で多世代交流ゲームを行うなど、屋外活動も楽しんでいます。

スタッフはこの1年間各プログラムを通して両世代間の交流を促進し、ニーズを同時に充足できるように看護としての視点を生かして支援してきました。また、研究的には参加者の相互交流の参加観察、参加者への効果の評価を行っています。相互に自然な交流があり、参加者と地域で出会うことも多くなりました。プログラムやゲーム等を通じて両世代が互いに教え、教えられ、世代間交流は両者の互恵的ニーズが満たされることがわかり、小学生は高齢者への肯定的イメージの形成に、高齢者にとっては抑うつ症状の改善と生活の質の向上、意味ある外出先となることに有効であるとの成果が認められました。プログラムの満足度は小学生、高齢者とも高く、ほぼ全員が2010年度も継続参加し、都市部においての多世代共存をめざしていきます。

■「出張介護講座」(看護ケア研究部門)

事業主: 亀井 智子 開催日: 予約制 参加人数: 45名

今年度は佃にある中央区シニアセンター生きがい活動支援室 菊田正行さんの要請で、「転倒を防ぐフットケア」について講義と演習を行いました。

足は第二の心臓といわれるポンプの役割をもつこと、足爪がないとこのポンプの働きが低下すること、歩くための足の筋肉、足の手入れについてお話し、その後足の手入れの演習を行いました。女性の参加者が多かったように思いましたが、みなさんととても熱心にメモを取りながら聞いてくださっていました。

菊田さんから頂いた礼状の中から抜粋して講座を受講した感想を紹介します。「先日はフットケアの講座をしていただきありがとうございました。たくさんの参加者で私たちは大変喜んでおります。かなりの年配の方たちですので、健康への関心は高いのですが、脚の健康といえば膝や平衡感覚などの体操が一般的です。フットケアのことは今回初めて知りました。講義だけでなく、実習もしていただいたので、大変わかりやすく、役立つ知識で理解しやすかったと思います。私もこれから入浴のときに爪を優しくケアするようにしています。是非習慣づけるようにしたいと思っています。・・・」

このような保健行動の獲得と継続は、介護予防につながります。地域での出張介護講座が高齢者の介護予防のお手伝いに繋がれば、とても嬉しいことです。

■「転倒骨折予防実践講座」(看護ケア研究部門)

事業主: 亀井 智子 開催日: 5回/年 参加人数: 36名

老年看護学が主催する「高齢者のための転倒予防教室」は2005年度から始まりましたが、プログラム内容をさらにバージョンアップした現在の「転倒骨折予防実践講座」は今年度で2年目になりました。今年度は、午前20名、午後16名の計36名が参加しました。午前・午後に4回の講座と3ヵ月後の同窓会1回を実施しました。講座内容は、各回共通に身体チェックと心身の計測を行い、その後、毎回異なる内容のミニ健康講座20～30分(「転倒の発生とその予防」「栄養と食事」「フットケア講義・実習」、「自宅の安全対策(HHMP)」)を医師、管理栄養士、看護師らの講師によって実施しました。さらに健康運動指導士による、参加者の健康や歩行レベルに合わせた運動プログラム(椅子に座ってできる

簡単な体操、マットを使用したストレッチ運動、歩行運動等)を1時間程度行いました。参加者からは、「講座で学習したことを自宅でも継続して実施しています」「来年も参加したいです」「参加して良かったです」など、毎年大変好評を得ています。

■「リンパ浮腫ケアステーション」(看護ケア研究部門)

事業主:小松 浩子 開催日:毎週火曜日 参加人数:197名

リンパ浮腫ケアステーションはがん看護を専門とする看護師、あん摩マッサージ指圧師、乳がん専門医がチームを組織し、がんの治療に伴うリンパ浮腫の予防、早期発見、適切なケアに関するセルフケアの教育、および専門的ケアの提供など、リンパ浮腫に対する統合的なケアを行っています。

初年度に引き続き本ステーションは、リンパ浮腫をもつがん体験者に対して、リンパドレナージなどのリンパ浮腫ケアの提供や自宅でも自分でケアが継続できるようにセルフケア指導を行いました(1日5名)。また、リンパ浮腫が軽度の方、予防が必要な方を対象に毎月1回グループ制(4~6名)でリンパ浮腫の予防、早期発見のためのセルフケア指導も行いました。

昨年度は、看護師の技術、知識の向上を目指してリンパ浮腫ケア講習会(基礎編)を開催しましたが、今年度は基礎編の講習会を受けた看護師を対象に、6回コースのリンパ浮腫ケア講習会(アドバンス編)を開催しました。来年度も本ステーションを利用される方のニーズをふまえて、適切なリンパ浮腫ケアが提供できるように努めていきたいと思っています。



市民健康講座



■「健康支援ボランティア講座」(教育研究部門)

事業主: 大久保 菜穂子 開催日: 4 回 / 年 参加人数: 33 名

今年、健康支援ボランティア講座も 4 年目を迎えました。実施に先立ち、ポスターやチラシを作成し、るかなびの市民向けコーナーへ配置したり、近隣施設に掲示等の協力をお願いしました。また、センターの催しもの案内や学内ホームページ上、そして後援の中央区社会福祉協議会の広報誌を通して希望者を広く募集しました。その結果、定員 30 人に対し 33 人の応募がありました。例年、参加者は女性がほとんどですが、今年は 2 割の男性が参加して下さいました。講義内容は①ボランティアに関する概論②身体的健康に関して③こころの健康に関して④健康に関する概論（ヘルスプロモーション）でした。受講者にアンケート調査の協力を依頼しました。その結果、9 割以上が本講座は有意義であり、今後のボランティア活動に役立つと感じ、講座に参加しボランティアへの活動意欲が参加前よりも高まったと回答して下さいました。講義内容に関しても、9 割以上が理解でき、新たに知識が得られ、満足したと回答しました。講座修了生には研究センターの目的である「市民とのパートナーシップ」に向け、「るかなび」などでのボランティア活動を通して活躍して頂く予定です。

■「あなたに見合う運動実践アドバイス」(教育研究部門)

事業主: 小口江美子 開催日: 11 回 / 年 参加人数: 33 名

「適切な運動を通じて健康づくりや健康維持を望む方」や「運動をしたいけれど、どんな運動をどのくらいしたらよいか分からない方」などを対象に募集し、加療中の方は主治医と相談して、許可を得た上で参加して頂いています。

1 人 30 分程度の相談に応じて、生活習慣病や骨粗しょう症やストレスの緩和・改善、転倒予防などを目指して、健康づくりや治療、リハビリに幅広く対応できる運動の紹介や、運動のやり方を、個人個人の体力や生活事情に合わせて運動メニューを作成しています。

これまでにウォーキング、自転車エルゴメーター、椅子体操、マット運動、ストレッチ、腹式呼吸など、相談者の希望に合わせた運動の種類とやり方をアドバイスしています。

参加者は、ご高齢で、整形外科的な症状や疾患のある方、生活習慣病の方などが多く、運動に関する相談だけでなく、薬やサプリメント、栄養に関する相談など多岐に渡ります。研究センター 1 階の「るかなび市民健康相談」としての役割に、具体的な運動実践アドバイスがプラスされて、実際に運動もやってみることができる場所となっています。

■「ストレスマネジメントヨーガ」(教育研究部門)

事業主: 小口 江美子 開催日: 12 回 / 年 参加人数: 124 名

I 期 6 回、II 期 6 回の入替制で、10 月～3 月の 6 ヶ月間開講しました。昨年度から始まり今年度で 2 年目を迎えました。「悩みやストレスを抱える人や、介護中の腰痛・肩こりを抱える人も歓迎」とセンター催し物案内等で募集したところ、昨年の参加者、参加者から紹介された方、初参加の方などを含め、授業後の学生や会社帰りの OL、自営業、主婦、介護中の方、国際病院他に通院中の方、看護師、ヨーガ講師などが参加されました。参加者の方々からは、「腰痛や肩こりがほぐれた」「便秘が解消できた」「よく眠れる」「忙しくて来るのは大変だが、来ると非常にリラックスできる」「ストレスが発散できた」「こ

の空間が心地よく、普段笑うことが多くなった」「この日がとても楽しみになった」「体の不調が減った」「5年間睡眠剤なしでは眠れなかったが、ヨーガの日は薬がなくても眠れる」「癒される」等の感想が寄せられています。学校帰りや仕事帰りに気軽に立ち寄り、手軽に元気になれるヨーガの技法だけでなく、心地よい時間と空間を提供できるよう心がけています。

■「新健康カレッジ もっと知ろう、自分のカラダ！」（教育研究部門）

事業主：小口 江美子 開催日：4回/年 参加人数：183名

4つのセミナーのタイトルは、①身近に起きる高血圧症とその対策②骨粗しょう症の仕組みとその対策について③インフルエンザについて④糖尿病や糖尿病予備軍とその対策、でした。

参加者のアンケート自由記載によると、「今後も参加させていただきます」「順序よくお話を進められたので大変良いと思いました」「健康に関わることは、何でも知りたいのでいろいろ教えて下さい」「骨粗鬆症のお話とてもよくわかりました」「最新の情報がわかりやすく、勉強になりました」「今後も是非続けて頂きたい」「専門家の方々による解りやすい講義はとても理解できて嬉しく思います。今後も貴重なお話を期待しています」「是非続けてほしいと思います。不眠（ストレス）等々、身体、病気について勉強したいと思います」の感想が寄せられました。4回参加者は20名、3回参加者は13名、2回参加者は11名でした。地域の住民の方々が楽しみに継続参加されている様子が伺えます。4回継続参加者にはセミナーに役立つ聖路加グッズが記念品として贈られました。

■「聖路加市民アカデミー」（教育研究部門）

事業主：小口 江美子 開催日：1回/年 参加人数：281名

2つのセミナータイトルは、①「新健康のあり方～環境を整え健やかに生きるとは」②「子どもや胎児へのタバコの影響～タバコから子どもたちを守る環境づくり」でした。講演の後にはソプラノ歌手により世界の叙情歌が歌われ、澄んだ美しい声が会場を魅了しました。

平日にも拘らず多くの市民が参加されました。毎年恒例の市民アカデミーは地域住民をはじめ大勢の市民の方々に定着した様子です。参加者のアンケートでは「日野原先生のお話から生きる力のパワーを頂きました」「日野原先生の講演はユーモアがあり楽しくお話を聴くことができ、これからの自分の生き方の参考にさせていただきます」「自らを見直す良い機会でした。感謝しています」「喫煙の危険性についてとても分かりやすく拝聴しました」「とても素晴らしいお話でした。タバコがやめられない娘にこの資料を早速見せたいと思います」「もっと若い人たちにも是非聞かせたい内容でした」「コンサートはとても癒されて心満ち足りた気分になりました。ありがとうございました」等の感想が寄せられました。

■「はじめての一步の会」(政策研究部門)

事業主：山田雅子 開催日：随時 参加人数：25名

「はじめての一步の会」は、2007年に発足し、中央区民と聖路加看護大学が協働して活動しているボランティアグループです。私たちの住む町は安全で健全、そして何よりも住む人が愛着をもつ特別な場所であります。同じ町に住む人々がしなやかな人間関係を育むことができるよう、活動を行っています。2009年末での会員数は、25名、2009年度は月1回の定例会を開催し、勉強会開催、事例検討会、方向活動等を通して、団体として提供できるサービスの吟味と、サービス提供に必要なマニュアルの整備等を行いました。

サービス提供実績は、21年4月から12月までの間に4名の在宅療養者に対して延べ12回の訪問を行い、主として高齢の方に対して、話し相手、見守りを行いました。そのうち、1名が亡くなりました。現在、活動を広く知っていただくために、広報誌の作成に取り組んでいます。

■「中央区民カレッジ まなびのコース」(看護ケア研究部門)

【前期】事業主：山田 雅子 参加人数：25名

【後期】事業主：山田 雅子 参加人数：25名

前期、後期ともに水曜日の18時30分～20時に、看護実践開発研究センター「ぼるかルーム」あるいは「交流ラウンジ」にて実施しました。前期のテーマは「命の営みを知ってよりよく生きる！」で人体の構造・機能と健康、ヘルスプロモーションの考え方、そして健康情報の探し方について講義3回、ヨガ2回を行いました。参加者は20～80歳代まで、平均50.0歳の方が参加されました。

後期のテーマは「命の営みを知って、より良く生きる！」で、3回の講義と2回のヨガを通して誕生から死までの人間の生命の営み、命の終焉における看取り、有限の命を健やかに生きるための方法を学びました。参加者は30～70歳代。平均56.7歳でした。

本講座で死や看取りをはじめて取り上げましたが、参加者の評価は、プログラム全体に対して前期・後期ともにほとんどが「よかった」、自分にとって「役に立つ」と回答され、人間のからだとそのサイン、生命の営み、健康、死・看取りについて理解が深まり関心を持つようになったと回答していました。また半数以上が自分や家族の健康を意識して過ごすようになったと回答され、概ね高い評価が得られたといえます。

■「中央区民カレッジ シニアコース」(看護ケア研究部門)

事業主：山田 雅子：参加人数：24名

講義 7 回、見学 2 回、全体討議 1 回、合計 10 回のクラスを、築地社会教育会館において実施しました。参加者は 61 歳～86 歳（平均 71.0 歳）、男性 5 人、女性 19 人でした。

10/6	看護ってなあに？：看護師の仕事を理解しよう	講師	吉田千文
10/13	病院の役割としくみ	講師	中村綾子
10/20	病院看護師の仕事	講師	奥裕美
10/27	病院を探検しよう！：聖路加国際病院見学	講師	市嶋尚子・笹田優子
11/10	看護師になるには？	講師	堀成美
11/17	看護大学ってどんなところ？：聖路加看護大学見学	講師	山口喜義 吉田千文
11/24	看護の仕事：家での療養を支える	講師	押川眞喜子
12/1	看護の仕事：命の誕生に関する	講師	森明子
12/8	看護の仕事：住民の健康づくり	講師	小林真朝
12/15	健康づくりに看護の力を使おう！	講師	吉田千文

アンケート回答者（15 人）の全員が、「良かった」、「役に立った」と答え、その理由に具体的な講義や見学で、医療や看護の「社会的な面」を深く知ることができたことがあげられました。また今後の企画について自分の健康増進や介護予防、親や配偶者の介護が上げられ、シニアにとって切実な健康問題について学習の機会を提供する必要性が示されました。



ナーススキルアップ講座



■「英文献を読もうパートⅠ」（継続教育部門）

事業主：園城寺 康子 開催日：前期 5 回、後期 5 回 参加人数：27 名

テキストは『看護英語読解 15 のポイント』メジカルビュー社とその CD を使用しました。各回 1 Unit を説明解説したり、他の医療系教材（例：インフルエンザの記事など）も適宜使用しながら、特に複雑な構文の理解を目指し、訳読や解説をし、受講者の皆さんにも訳してもらったりしました。医療系の文献の特徴だけではなく、基本的文法に留意した正確な内容把握を中心に授業を行いました。また、受験志望者も参加しておりましたので、修士課程の試験問題の一般的傾向や対策なども紹介し、制限時間内に問題を実際やってもらい、個人的に添削、助言を行いました。また、英語の学習法に関する質問も多かったので、直読直解の方法などの実践的学習方法も紹介しました。受講者の皆さまは年齢、専攻分野など様々でしたが、とても真剣で熱心取りに組んでくださいました。

■「英文献を読もうパートⅡ」（継続教育部門）

事業主：田代 順子 開催日：5 回 / 年 参加人数：13 名

日本や世界のグローバル化が進むなか、日本の医療の現場でも、また、広がった大学院学修でも、看護師たちにとって国際語である英語力をつけることが必須なことになっています。ナースのスキルアップの一貫として、Evidence-based Nursing（EBN）の理解を深める英語教材で読んで、現場の看護の質を高める際、必要となる英語の力をつけたいと講座を計画しました。

2009 年の第 1 期では、7 名登録があり、6 名が受講を修了し、その中の 3 名は大学院希望があり、その後、合格との報告を受けています。2010 年の第Ⅱ期も 8 名の登録があり、6 名の方は最終回まで受講できました。5 回の受講ですが、最終日には、受講生全員、英文の講読の早さも、正確さも高まり受講成果を上げて終了できています。来年度も、学習意欲ある看護職の学習支援を継続したいと考えています。

■「看護管理コンサルテーション」（教育研究部門）

事業主：井部 俊子 開催日：随時 参加人数：0 名

看護管理者のみならずスタッフとして勤務しているなかで管理上の問題で職場がうまくいかないことがあります。そうした事態に直面している相談者に問題解決に向けた助言をし、支援したいと考えています。

■「緩和ケアコンサルテーション」（継続教育部門）

事業主：小松 浩子 梅田 恵 開催日：予約制 参加人数：2 名

今年度は、2 件の緩和ケアコンサルテーションを受けました。組織の立ち上げに伴う、緩和ケア教育の進め方や、緩和ケアに関心を持つ看護師のキャリアアップについての相談を受けました。

相談をしたいと思うときにすぐに対応できると、もっと身近にご利用いただけるのかもしれませんが、限界のなか、もう少し利用が増えるよう工夫していきたいと思います。

■「がん看護事例検討会」（継続教育部門）

事業主：小松 浩子 矢ヶ崎 香 梅田 恵 開催日：9 回 / 年 参加人数：延べ 75 名

がん看護専門看護師として活動している方、現在、がん看護専門看護師を目指している方が集まり（2 時間 / 月）、受け持っているケースの事例を持ち寄り、日頃の実践の疑問や問題について話し合いながら、がん看護専門看護師に必要な能力の向上を目指して、様々な観点から検討し、共有しています。同じ立場で集まることで互いのピアサポートにもなっています。

今年度は事例検討会を 9 回実施し、12 名（延べ 75 名）が参加しました。当事例検討会に参加された方は、今年度も日本看護協会の専門看護師認定審査に全員合格されました。今後も事例検討会を通して、がん看護専門看護師のスキルアップを目指して取り組んでいきたいと考えています。

■「精神看護事例検討会」（継続教育部門）

事業主：萱間 真美 開催日：4 回 / 年 参加人数：111 名

精神疾患（障害）を抱えている方に対して訪問看護師、専門看護師がどのように関わっていったらよいかを話し合い、よりよい看護を提供することを目的に、定期的に事例検討会を開催しています。

訪問看護師は、地域で生活をしている精神障害を抱えている方々へ様々なケアを提供していますが、精神障害の程度や内容は、対象者によって異なっているため、ケアを提供していく上で困難を感じたり、どのように関わっていったらよいのかわからなくなることもあります。訪問看護師は、対象者の生活の場に赴いて看護を提供するため、その場での判断を求められることも多く、対応に苦慮したり、不安が大きくなることもあります。これらの困難や不安について、同じ立場である訪問看護師同士が共に考え、支えあうことのできる事例検討を行っています。

専門看護師の場合も同様に、病棟看護師が対応に苦慮している患者様に対しアドバイスなどを行う際、どのように行っていったらいいのかを同じ立場の専門看護師同士が共に考え、支えあうことのできる事例検討を行っています。いずれの事例検討会も来年度引き続き行う予定です。

■語り合おう！看護マネジメント 看護管理者のためのサポートプログラム

事業主：吉田 千文 開催日：年 6 回 参加人数：70 名

本学認定看護管理者セカンドレベル講習開講期間の毎週金曜日 17 時 30 分～19 時まで、2 号館 5 階のミーティングルームで開催しました。

1 回目と 2 回目は、参加者が「井部俊子：看護マネジメントの探求，ライフサポート社、2007」の中から印象に残ったり、共感したり、あるいは勇気づけられた章を紹介し、それについて意見を述べ、類似した体験を語り合いました。3 回目は上記書 86 章の「霧の中の前進― 足元だけを見て歩くことの大切さ」で述べられている「知を殺して生きる」ことについて、4 回目は 3 回目の「霧の中・・・」の関心が知的に発展し「キャリアミスト」について学習しました。最終回は一人の参加者が打ち明けてくださった看護管理に関する悩みを皆で聴き、状況をどのように理解すればいいのか、またその方の立場でどのような対応が可能なのかを話し合いました。5 回を通して終始和やかな雰囲気の中で行われ看護マネジメントへの思いや体験を共有しあうとともに、新しい視点を学ぶ機会になりました。

■退院調整看護師養成プログラムと活動支援（政策研究部門）

事業主：山田 雅子 開催日：1 コース全 5 回 / 年 参加人数：42 名

近年の医療提供の在り方として、入院期間を短くすることが強く求められています。そのため在宅医療が推進され、入院から在宅への継続した医療提供体制がとられるようになってきています。しかし、病院医療から在宅医療へ移行する際に十分な看護が提供されているのかということに関しては、両者の仕組みが異なることもあり、十分なノウハウが浸透しているとはいえない状況にあります。この事業では、病院でこうした移行期のケアを担当している看護師（退院調整看護師）に対して、その活動支援を行なうプログラムです。日頃一人で試行錯誤しながら取り組んでいる業務を、同じような立場にある看護師が集まり、意見交換をする中で、「退院調整看護師としての視野が広がった」とか「他施設での状況を聞きながら自施設で取り組む際のヒントを得ることができた」といった感想が寄せられました。

■文献検索～準備体操（継続教育部門）

事業主：中山 和弘 開催日：3 回 / 年 参加人数：23 名

看護文献を検索するコツを、医中誌 web、PubMed という 2 つのデータベースを使ってご紹介しました。各回定員 10 名の小規模な講習会を想定しておりましたが、多くの方にご参加いただきました。参加者のほぼ全員が大学院進学予定者で、文献検索を行ったことで困った経験がある方がほとんどでした。講座では最初に、このような参加者の経験や希望をお聞きし、できるだけそれらにあわせた内容で講座を開催しました。内容は、例えばキーワードの見つけ方がわからない、検索結果が多すぎたり少なすぎたりするので妥当な絞り込み方を知りたい、たくさんあるデータベースをどのように使い分けるのか、データベースに適した検索方法はあるのか、データベースの画面が変わったので使い方を知りたいといったことでした。1 人 1 台のパソコンを用意して、画面を操作しながら課題を解いたり、データベース操作を実習しました。参加していた大学院進学予定者からは開催時期が入学の直前に設定されていたことが適切であるとの声をいただきましたので、また同時期での開催を検討したいと思います。



認定看護管理者講習・認定看護師教育課程



「認定看護管理者セカンドレベル講習」(生涯学習支援)

事業主: 井部 俊子 開催日: 2009年8月3日～9月25日 参加人数: 29名

2008年12月に日本看護協会より認定看護管理者セカンドレベル教育機関の認定を受け、今年度初めてセカンドレベル講習を実施しました。受講生の平均年齢は44.6歳、職位は看護師長職16人、主任職8人、副看護部長職3人、その他2人。所属は在宅医療関係1人を除き全て病院でした。

講習の目的は、受講者が看護管理者としての基礎的な能力である、①看護管理実践上の課題を捉える多角的視点、②主体的態度、③論理的・倫理的思考力、④対人関係能力、および⑤記述・発表能力を向上させることで、専門領域の講師による講義とともに、Problem-Based Learning(以下、PBL)が行なわれました。

講習に対する受講生の評価(自記式無記名質問紙法)では、ほとんどが講習全体とPBLに満足し、有意義で、今後の看護実践に活かせると答えており、さらにPBLを通して自分の論理的思考力、対人関係能力、及び記述能力が向上したと答えました。教育方法論上のいくつかの課題が残されましたが概ね高い評価が得られたと考えられます。2010年度と2011年度はファーストレベル講習を実施し、次のセカンドレベル講習は2012年度の予定です。

「認定看護師教育課程」(生涯学習支援)

事業主: 山田 雅子 開催日: 2009年6月1日～2010年2月27日 参加人数: 66名
(①不妊症看護コース・②がん化学療法看護コース・③訪問看護コース)

講師: ①森明子(教授)、實崎美奈(助教)

②小松浩子(教授)、矢ヶ崎香(助教)、細川恵子(助教)

③山田雅子(教授)、吉田千文(准教授)、竹森志穂(非常勤講師)、沼田美幸(非常勤講師)

認定看護師は、複雑・多様化する社会や医療状況の中で、患者さんの健康問題を多角的に捉える視点を持ち、特定の分野において質の高い医療サービスを提供することができる看護師を言います。本学では、上記3つの特定分野における認定看護師教育を行なっています。プログラムは実習を含み、600時間を要します。研修生は、職場での仕事を行いながら、金曜日、土曜日を中心とした講義等に出席しました。修了者は①16名、②30名、③17名でした。なお、5月に行なわれた日本看護協会による認定審査合格者は、①15名、②28名、③17名でした。

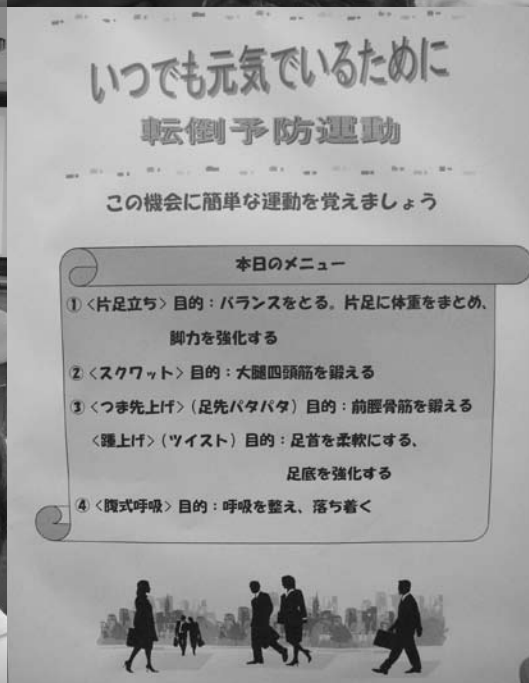


聖路加健康情報サービススポット「るかなび」(教育研究部門)

参加人数:1,200人(健康相談のみ)

るかなびは通りがかりの市民誰にでも開かれた、健康に関する心配や疑問を一緒に考える場です。健康に関心があり、またボランティア活動に関心がある市民ボランティアと、保健師・看護師・栄養士などの健康に関する専門職ボランティアや教員が、血圧や骨密度、体重等の健康チェック、健康情報の探し方等を一緒に行っています。さまざまな病気の闘病記や、パンフレットも用意しています。月に1回ミニ健康講座・ミニコンサートを開いていますし、お茶を飲みながら話ができる日も用意しています。また、市民ボランティアになりたい方のための講座も開いています。今年度は市民ボランティアの勉強会もたくさん開かれました。大学の学生がいらした方から学ぶ機会にもなっています。

2009年度、来訪者は1,200名を超え、登録している市民ボランティアは36名、専門職ボランティアは38名でした。るかなびの活動は、大学が直接市民と協働している大変ユニークな活動で、学会からも注目されています。自分に合った健康生活を自信を持って過ごすために、看護大学が活用されることをうれしく思っています。



企業との連携—産学共同プロジェクト

テルモ株式会社からの寄付金をもとに、より直接的に社会貢献に寄与する産学共同プロジェクトとして、2007年12月より新たに「聖路加・テルモ共同研究事業」が立ち上がりました。

その中には新規事業として2008年度よりスタートした「聖路加・テルモ 新健康カレッジ」や、2007年度で終了した21世紀COEプログラムを継続実施する「ナースクリニック」の中の6つの事業および健康ナビスポット「るかなび」での事業があり、地域住民の健康を支援する活動を展開しています。

社会貢献事業の一環としての「聖路加・テルモ 新健康カレッジ」では、「カレッジセミナー」や「聖路加市民アカデミー」を開催して、市民に健康についての学びの場を提供しています。「新健康」のコンセプトは、「無病息災ではなくても、たとえ持病があっても、上手くそれをコントロールしながら、心身ともにより良く心豊かに生きる」ことを目指す、という日野原理事長の提唱によるものです。2009年度は全5回の講演やセミナーを開催しました。参加者が300人規模の市民アカデミーを中心として、その前後に参加者40～50人規模の、中高年の健康を支援する“もっと知ろう、自分のカラダ”と題した「新健康カレッジ セミナー」を4回シリーズで実施しました。セルフケアを支援するこれら産学共同プロジェクトはいずれも好評で、毎回の開催を心待ちにする問い合わせも多数あり、地域住民ばかりでなく、東京近郊の住民にも定着した様子がうかがえます。

2009 年度看護実践開発研究センター 事業一覧

	事業		研究センターの機能						連携・共同事業	掲載ページ
	事業カテゴリー	事業名	看護実践開発に関わる研究	生涯学習支援	実践の場の提供	情報発信	国際的学際的な交流	研究支援		
看護ケア研究部門	ナースクリニック	ルカ子ウィメンズヘルス・カフェ	★	★	★	★	★		(株) テルモ	9
		赤ちゃんがやってくる	★		★	★				9
		ルカ子母乳育児相談室	★		★		★			9
		乳がん女性のためのサポートプログラム	★		★	★	★		(株) テルモ	9-10
		天使の保護者ルカの会	★		★	★	★		(株) テルモ・文部科学省研究費補助金	10
		天使の保護者ルカの会 グリーフカウンセリング	★		★	★	★			10
		子どもの健康、知ろう、考えよう	★				★		(株) テルモ	11
		食事・栄養相談と健康心理カウンセリング	★		★					11
		多世代交流型ダイブプログラム聖路加 和みの会	★	★			★		SMTF 助成金	11-12
		出張介護講座	★	★		★	★		(株) テルモ	12
		転倒骨折予防実践講座	★	★		★	★		(株) テルモ	12-13
		リンパ浮腫ケアステーション	★		★		★			13
	調査・研究		★							
教育研究部門	るかなび	るかなび：聖路加健康ナビスポット	★		★	★	★	★	(株) テルモ	25
	市民健康講座	朗読の会		★			★			-
		中央区との連携事業 中央区民カレッジ「まなびのコース」		★		★	★		中央区	17
		中央区との連携事業 中央区民カレッジ「シニアコース」		★		★	★		中央区	18
		健康支援ボランティア講座	★	★	★		★		文部省科学研究費補助金	15
		新健康カレッジ		★		★	★		(株) テルモ	16
		市民アカデミー		★		★	★		(株) テルモ	16
		ストレスマネジメントヨーガ	★	★			★			15-16
		あなたに見合う運動実践アドバイス		★						15
		はじめての一步の会		★						17
	調査・研究		★							
国際看護研究部門	WHO コラボレーティングセンターとの共同事業		★	★	★	★	★			-
	海外からの研修受入れ						★			-
	海外研究者等招聘						★			-
	調査・研究		★							-
政策研究部門	コンサルテーション	看護管理コンサルテーション		★						20
		在宅ケアコンサルテーション		★						-
		緩和ケアコンサルテーション		★					がんプロフェッショナル養成プラン	20
	調査・研究		★							
継続教育部門	認定看護師教育課程	不妊症看護認定看護師教育課程		★						24
		がん化学療法看護認定看護師教育課程		★					がんプロフェッショナル養成プラン	24
		訪問看護認定看護師教育課程		★					日本財団	24
	認定看護管理者講習	認定看護管理者セカンドレベル講習		★						24
	ナーススキルアップ	文献検索～準備体操～		★						22
		退院調整看護師養成プログラムと活動支援		★			★			22
		語り合おう！看護マネジメント 看護管理者のためのサポートプログラム		★						21
		がん看護事例検討会	★	★			★		がんプロフェッショナル養成プラン	21
		精神看護事例検討会	★	★			★			21
		英文献を読もう！パートⅠ		★			★			20
		英文献を読もう！パートⅡ		★			★			20
	調査・研究		★							
研究支援室	教育・研究支援			★		★		★		

2009 年度教育・研修におけるセンターの活用状況

教員氏名	利用者数	学生種別と人数	科目 (授業・演習・研究の一環として利用した場合)
堀内 成子	1 名	学部 4 年生	総合看護
菱沼 典子	不明	本学 1 年生・学士編入 13 回生	看護学概論
菱沼 典子	90 名	本学 1 年生・学士編入 13 回生	生活と健康
安ヶ平 伸枝	9 名	2 年生 (編入 13 回生含む)	看護援助論Ⅰ
亀井 智子	2 名	学部 4 年生	看護ゼミナール老年看護学
	1 名	修士 1 年生	老年看護学演習Ⅰ
	3 名	学部 1 年生	生涯発達看護論Ⅱ老年期
亀井 智子 大森 純子	2 名	学部 2 年生	生涯発達看護論Ⅱ壮年期
森 明子 實崎 美奈	16 名	認定看護師教育課程 不妊症看護コース	演習
竹森志穂 沼田美幸	20 名	認定看護師教育課程 訪問看護コース	演習・実習
菱沼 典子	1 名	博士課程	博士論文予備研究

2009 年度看護実践開発研究センター

運営委員会・専任研究員・支援室スタッフ

■運営委員会

センター長・政策研究部門長	教授	山田雅子
専任研究員・教育研究部門長	教授	森明子
専任研究員	教授	小口江美子
専任研究員	准教授	吉田千文
専任研究員	助教	矢ヶ崎香
専任研究員	助教	實崎美奈
専任研究員	助教	細川恵子
看護ケア研究部門長	教授	亀井智子
国際看護研究部門長	教授	田代順子
継続研究部門長	教授	松谷美和子
研究科長・学部長	教授	菱沼典子

■専任研究員

教授	山田雅子
教授	森明子
教授	小口江美子
准教授	吉田千文
助教	矢ヶ崎香
助教	實崎美奈
助教	細川恵子

■支援室スタッフ

専任職員	高木裕也
専任職員	平良智子
専任職員	岡部陽子
専任職員	福田昌
専任職員	田口瞳



St. Luke's College of Nursing
Research Center for
Development of
Nursing Practice

2009 年度聖路加看護大学 看護実践開発研究センター報告書

2010 年 7 月 31 日発行

発行者：聖路加看護大学看護実践開発研究センター

発行所：瀬味証券印刷株式会社